

## 令和6年度 学校総合評価

### 1 今年度の重点目標に対する総合評価

今年度の重点課題として、次の3項目 (1) 学習活動 (2) 学校生活 (3) 特別活動においてそれぞれ目標を設定して取り組んだ。

#### (1) 学習活動「集団の中で自分の役割を知り、生徒の自立につながる学習指導の充実」

中学部では、自分から進んで取り組もうとする生徒を育てる授業づくりについて、教員間で相談する機会が少ないと感じている教員がいる。そこで、より自信をもって授業に臨むために、気軽に相談できる機会を設けたり、互いにどんな授業をしているのかを知る機会を設けたりすることで、生徒の自立につながる学習指導の充実を図りたいと考えた。具体的には個別の指導計画を基に、学年会で実態に応じた授業内容になっているかを確認したり、授業の仕方や教材のアイデア等について相談したりすることにした。また、授業について困っていること等を相談する「ご意見ポスト」を設けて気軽に投稿できるようにして教員間で共有することにした。

その結果、教員からのアイデアや助言を基に、生徒の実態に根差した指導計画や教材の作成、個に応じた教材や提示の仕方を工夫することができ、生徒がタブレット端末を操作して楽器を演奏したり、自分のペースを維持しながらランニングを続けたりする姿が増えた。アンケートの結果、学習環境や授業内容の改善により、生徒の主体性や意欲が向上したことが確認できた。

#### (2) 学校生活「児童生徒の校舎内外等生活環境の整備・美化への意識の向上」

本校には、学校をきれいに保つことに親しみをもっている児童生徒が多い。一層継続的に美化意識を向上させることは、今後の社会的自立にもつながると考えた。そこで、環境美化委員会のメンバーが中心となって話し合い、年3回の「学校ぴかぴか運動」と年2回の除草や落ち葉拾いを行った。

その結果、取組後生徒に行ったアンケートには、「やって楽しかった」という感想が書かれていた。また、この取組を行った結果、授業後に率先して清掃しようとする児童生徒の姿もみられるようになり、全校で「学校をきれいにしよう」という意識が児童生徒の中に高まってきたと考える。

#### (3) 特別活動「児童生徒会執行部活動（全校集会）の活性化」

令和5年度途中までは児童生徒が発表を見たり聞いたりしている集会が多かったが、9月から全校児童生徒が参加する集会を行ったところ、楽しんで参加する児童生徒の姿がみられた。そこで、今年度は全校児童生徒が主体的に集会に参加できるよう、内容を見直したり児童生徒会執行部が中心となって立案や進行を行ったりすることで、全校集会への興味・関心を高め、児童生徒会執行部活動の活性化を図ることにした。

その結果、児童生徒会執行部員が積極的に意見を出し合って活動内容を考えたり、集会では自分の役割に主体的に取り組んだりする姿がみられた。また、教職員を対象としたアンケート結果から、児童生徒が楽しんでクイズに答えたり、ダンスをしたりする集会活動に参加できていることが分かった。

### 2 次年度へ向けての課題と方策

- (1) 複数の教員で支援する一部の授業では、十分な事前打合せができず、生徒の支援方法について共通理解が不足しているケースもあり、教員間のより一層の連携強化が必要と考えられる。
- (2) 児童生徒の環境美化への意識を高めしていくために、日常生活の中で、家庭や地域と関わりながら、清掃以外に、花を育てる活動等も取り入れた美化活動を継続していきたい。
- (3) 児童生徒自身が考えて、みんながより楽しめる集会にするために、児童生徒へのインタビューの仕方やクイズの解答方法等、児童生徒の実態に即した集会の進め方について更に検討していきたい。また、学部間で交流ができるような活動を企画することや、各委員会間の連携についても考えていく必要がある。

重点項目	学習活動（中学部）	
重点課題	集団の中で自分の役割を知り、生徒の自立につながる学習指導の充実	
現 状	<p>「主体的・対話的で深い学び」を通して※「資質・能力（三つの柱）」を育成する授業づくりが求められている。これらの「資質・能力」は、自立を目指す生徒の育成に深くつながるため、授業づくりの重要性を感じている。中学部は、教員が一人で授業を行ったり、若手の教員同士で授業を受け持ったりする場合も多くあるが、日々の業務や授業の準備に追われ、教員間で授業について相談する機会が少ない。そこで、授業づくりについて気軽に相談できる機会を設けたり、教員間で互いにどんな授業をしているのかを知る機会を設けたりすることで、生徒の自立につながる学習指導の充実につなげたいと考える。</p> <p>※「資質・能力（三つの柱）」…知識及び技能（何を理解しているか、何ができるか）、思考力・判断力・表現力等（理解していることやできることをどう使うか）、学びに向かう力、人間性等（どのように社会と関わり、よりよい人生を送るか）</p>	
達成目標	個別の指導計画の内容確認や授業の進捗状況等を話し合うための学年会を前期、後期共に行う。	授業づくりに関する相談等を重ねたことで授業改善・生徒の変容につながったと答えた教員の数
	前期：2回以上、後期：2回以上	80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の指導計画の目標・手立てを前期は5月中に、後期は10月中に作成し、それを基に学年会で実態に応じた内容になっているかを確認したり、授業の仕方や教材のアイデア等について相談したりする。</li> <li>・授業について困っていることや気付いたこと等を相談する「ご意見ポスト」をOneDriveに設けて気軽に投稿できるようにして教員間で共有し、時間が取れるタイミングに学年で話し合う。</li> <li>・授業改善や生徒の変容につながったかについてアンケートを実施する。</li> </ul>	
達成度	前期・後期の学年会の実施回数 2回以上	授業改善・生徒の変容につながったと答えた教員の割合
	前期：1学年3回 2学年2回 3学年2回 後期：1学年2回 2学年3回 3学年2回	85%
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部会で個別の指導計画の作成期限を提示し、目標や手立てを期限までに作成するように促した。これを基に各学年会では、授業の内容について意見交換をしたり、支援方法について共通理解を図ったりすることができた。</li> <li>・中学部のOneDriveに「ご意見ポスト」を設け、授業についての意見や質問等が入力された際、ボード上に投稿数を示し、共有した。</li> <li>・前期と後期にアンケートを実施し、結果をまとめて学部会で共有した。</li> </ul>	
評 価	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の指導計画の作成期限を設定した結果、各教員の計画作成が比較的円滑に進み、生徒の実態に根差した指導計画を立てることができた。学年会での活発な意見交換により、「生徒の支援目標や内容をより意識できるようになった」「新たな提案を得られた」「困り感を共有し、チームで生徒を支援できるようになった」など、教員から好評を得た。</li> <li>・OneDriveの「ご意見ポスト」では、授業の指導事例や教材のアイデア、生徒の支援方法等が共有されたが、利用頻度は低く、多くの相談は教員間の直接的なコミュニケーションで解決している状況である。</li> <li>・アンケートの結果、学習環境や授業内容の改善により、生徒の主体性や意欲が向上したことが確認できた。一方で、授業についての共通理解が不足しているケースもあり、今後の課題として教員間のより一層の連携強化が必要と考えられる。</li> </ul>
学校関係者の意見	<p>「ご意見ポスト」の利用は少なかったが、教材やその他の情報が共有できるツールであると思われるので、システムや仕組みを改善して活用していけばよい。</p> <p>評価はBだが、Aに近いと思われる。</p>	
次年度へ向けての課題	<p>重点課題に向けて、実態に応じた授業内容や支援方法等の検討を行うなど、教員間のより一層の連携強化を図る必要がある。</p>	

重点項目	学校生活（保健部）	
重点課題	児童生徒の校舎内外等生活環境の整備・美化への意識の向上	
現 状	<p>児童生徒は、日頃から授業後に片付けを行ったり、日常生活の指導や作業学習等で教室や特別教室等の清掃を行ったりしており、学校をきれいに保つことに親しみをもっている児童生徒が多い。一層継続的に美化意識を向上させることは、今後の社会的自立にもつながると考える。</p> <p>そこで、小学部低学年児童から高等部生徒まで、実態も様々な児童生徒たちであるが、「私たちのすてきな学校」についてみんなで考え、児童生徒同士が協力し合いながら取り組む実践をしたい。環境美化委員会の児童生徒を中心に、「学校びかびか運動」を企画し全校で行ったり、児童生徒自身が、チェック表等を活用して取組や環境の整備・美化状況を把握し、改善しながら取り組んだりできるようにしていきたい。</p>	
達成目標	「学校びかびか運動」に企画、改善しながら取り組んだ回数	学校行事前に環境美化活動に取り組んだ回数
	年3回以上	年2回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境美化委員会が中心となり、「すてきな学校」についてどうすればよいのかと委員会活動で話し合う。そして、その活動を実施し、アンケート集計を行う。集計結果から児童生徒ができることなどを整理しまとめ、「学校びかびか運動」や学校行事前の環境美化活動等での活動内容を校内放送等で発表する。</li> <li>「学校びかびか運動」を学期に1回（7月、11月、2月）企画実施し、学部・学年・学級のグループで校内の環境整備を行ったり、環境美化への意識が高まる活動「校内清掃や球根植え等」を行ったりする。チェック表を活用して取組状況を把握し、次回に向けて児童生徒と教員とが一緒に考え、改善を図りながら実施する。実施後、取組状況等を環境美化委員会による放送等で児童生徒に報告し周知する。</li> <li>全校行事の運動会や学習発表会前に、環境美化委員会の呼びかけでグラウンドを含めた校舎内外の除草、ごみ(落ち葉等も含む)拾い等を行う。</li> </ul>	
達成度	7月、12月、2月	5月運動会前、10月学習発表会前の2回
	100%	100%
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境美化委員会のメンバーが中心となって学校をきれいにする意味や「すてきな学校」にするために「学校びかびか運動」を行うことについて話し合った。環境美化委員会の生徒は、事前に活動への呼び掛けや活動時間中の放送を行った。加えて、取組の結果が目に見えて分かるように取組後にシールを貼るポスター作成掲示等を教員が準備し、3、4日の期間で7月、12月、2月に実施した。7月は、短時間に清掃して学校をきれいにする活動の良さを理解し、環境美化委員会の呼び掛けに応じ、中学部や高等部を中心に全校でプレイルーム清掃やごみ捨て等に取り組むことができた。12月には、活動後「学校をきれいにすると気持ちがいいから棚拭きを行った」と意欲的な児童生徒の声を聞くことができた。2月には短時間にできる清掃活動等の紹介を放送やポスター作成掲示等を行い、環境美化委員会を中心に全校に呼び掛け、活動時には音楽を流して実施した。</li> <li>環境美化委員会や全校集会で児童生徒執行部からの事前の呼び掛けにより、5月にはグラウンドを含めた除草、10月には校舎周りの落ち葉拾い等を全校で行うことができた。</li> </ul>	
評 価	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>取組中、中学部や高等部に掲示したポスターには、複数のシールが重なるように貼られていたり、取組後生徒に行ったアンケートには、「やって楽しかった」という感想が書かれたりしていた。また、この取組を行った結果、授業後に率先して清掃しようとする児童生徒の姿もみられるようになり、全校で「学校をきれいにしよう」という意識が児童生徒の中に高まってきていると考える。この活動を継続することで、さらに美化意識の向上につなげていきたい。</li> </ul>
学校関係者の意見	<p>行事前に学校をきれいにする目標やシール等を貼るのは目に見えて分かりやすい。環境美化に取り組む達成感を味わうことは日々の生活や将来の職業に生かされるので良い活動である。美化意識を日常的にもつことが大切である。</p>	
次年度へ向けての課題	<p>児童生徒の環境美化への意識を高めるために、日常生活の中で、家庭や地域と関わりながら、清掃以外に、花を育てる活動なども取り入れた美化活動を継続していきたい。</p>	

重点項目	特別活動（生徒指導部）	
重点課題	児童生徒会執行部活動（全校集会）の活性化	
現 状	<p>本校の児童生徒会執行部は、朝のあいさつ運動（さわやか運動を含む）や全校集会（前期及び後期児童生徒会役員選挙立会演説会、退任式・任命式を含む）を主な活動とし、毎週火曜日の児童生徒会執行部による委員会活動で話し合いや計画の立案を行っている。</p> <p>令和5年度はコロナ禍前と同様に、体育館に全校児童生徒が集まった全校集会を10回行った。これまでは執行部の発表や給食集会等、執行部以外の児童生徒は発表を見たり聞いたりしている集会が多かった。9月から全校集会の内容を見直し、学部交流会やダンス大会等、全校児童生徒が参加する集会を行ったところ、楽しんで参加する児童生徒の姿がみられた。そこで、今年度は全校児童生徒が主体的に集会に参加できるよう、内容の見直しや検討をすることで、学部間で活発に交流し、全校集会への興味・関心を高めたい。また、児童生徒会執行部が中心となって計画の立案や集会の進行を行うことで、児童生徒会執行部活動の活性化を図りたい。</p>	
達成目標	児童生徒会執行部が中心となって企画し、実施した全校集会の回数	全校集会に参加することが楽しみになったと答えた児童生徒（教職員）の割合
	年2回以上	80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童生徒会執行部が中心となって全校集会を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒から意見を募り、意見を基に内容を検討し、全校集会の充実を図る。</li> <li>・活動計画を立て、全校集会の進行や運営に当たる。</li> </ul> </li> <li>○児童生徒（教職員）を対象に全校集会に関するアンケートを実施する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒を対象に、全校集会で取り組みたい活動内容を聞く。</li> <li>・児童生徒（教職員）を対象に、全校集会の感想や改善点について聞く。</li> </ul> </li> </ul>	
達 成 度	児童生徒会執行部が中心となって企画し、実施した全校集会の回数	全校集会が楽しかったと答えた児童生徒の割合
	3回	5月：86% 10月：84%
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回（5月）、第2回（10月） 児童生徒会執行部で活動内容のアイデアを出し合い、集会の名前や質問内容、解答の選択肢等を考えた。また、クイズ等に参加する教職員に参加を依頼した。当日は、司会や児童生徒へインタビューするなどの役割を分担し、進行することができた。集会後、児童生徒を対象に実施したアンケートの集計を行った。</li> <li>・第3回（2月） 第2回集会後のアンケート結果と児童生徒会会長の公約、これまでの内容からダンスやスポーツ等身体を動かすゲームを行った。</li> <li>・児童生徒を対象に、全校集会について三つの選択肢から選ぶ質問と次回に取り組みたい活動内容を聞くアンケート（用紙に記入）を行った。</li> <li>・教職員を対象に、全校集会での児童生徒の様子を五つの選択肢から選ぶ質問と、集会の内容についてのアンケート（Forms）を行った。</li> </ul>	
評 価	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒会執行部員が積極的に意見を出し合って活動内容を考えたり、集会では自分の役割に主体的に取り組んだりする姿がみられた。また、教職員を対象としたアンケート結果から、児童生徒が楽しんでクイズに答えたり、ダンスをしたりする集会活動に参加できていることが分かったが、クイズの選択肢の提示方法や児童生徒への解答の聞き方等の改善点が挙げられた。今後は、進行方法を見直したり、学部間で交流ができるような活動を取り入れたりするなど、全校集会への興味・関心がより高まる内容を工夫し、執行部活動の活性化を図っていききたい。</li> </ul>
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒たちは緊張の中でも当日を終え、やりきった感があった。今後も先生方が支援に当たり、児童生徒たちが前に出るような活動が続くとよい。</li> <li>・執行部の児童生徒がいろいろな意見を聞きながら、楽しいことを企画していることは素晴らしいと感じる。</li> <li>・子供たちに主体性をもたせて、できる子供たちはどんどん力を発揮していくとよい。</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の興味をより高め、自分たちで考えて楽しい集会にするために、インタビューの仕方やクイズの解答方法等、児童生徒の実態に応じた集会の進め方について検討していききたい。また、学部間で交流ができるような活動を企画することや、各委員会間の連携についても考えていく必要がある。</li> </ul>	